

略歴書

古屋 治 (ふるや おさむ)

東京電機大学理工学部理工学科機械工学系 教授, 博士 (工学)

1967 年生まれ (56 歳)



【専攻分野】 機械耐震工学, 振動工学, 装置機器学

【本会活動】

理事 (会計・会員) : 2021 年 6 月～2023 年 5 月

17WCEE 運営委員会 幹事 : 2017 年 11 月～2021 年 9 月

論文編集委員会 副委員長 : 2016 年 6 月～2018 年 5 月

原子力発電所の地震安全の基本原則に関わる研究委員会 委員 : 2016 年 6 月～2019 年 5 月

役員候補推薦委員会 委員 : 2015 年 6 月～2019 年 5 月

大会実行委員会 委員 : 2015 年 6 月～2017 年 5 月

将来構想委員会 委員 : 2014 年 6 月～2016 年 5 月

17WCEE 招致委員会 委員 : 2014 年 1 月～2017 年 1 月

国際研究発表会実施委員会 副委員長 : 2013 年 6 月～2015 年 5 月

地震被害調査関連学会連絡会 委員 : 2013 年 6 月～2019 年 5 月

理事 (事業) : 2013 年 6 月～2015 年 5 月

大会実行委員会 委員長 : 2013 年 4 月～2015 年 3 月

東日本大震災国際シンポジウム実行委員会 委員 : 2011 年 9 月～2012 年 3 月

システム性能を考慮した産業施設諸機能の耐震性評価研究委員会 委員 : 2011 年 6 月～2017 年 5 月

電子広報委員会 委員 : 2008 年 6 月～2011 年 5 月

事業企画委員会 委員 : 2007 年 6 月～2010 年 5 月

会誌編集委員会 幹事 : 2005 年 6 月～2007 年 5 月

【略歴】

1996 年 東京電機大学大学院先端科学技術研究科博士後期課程 修了

1996 年 博士 (工学)

1996 年 東京都立工業高等専門学校 助手

2002 年 London 大学 Imperial College Academic Visitor

2010 年 東京都市大学工学部原子力安全工学科 准教授

2016 年 東京電機大学 理工学部 電子・機械工学系 准教授

2018 年 東京電機大学 理工学部 機械工学系 教授 (現在に至る)

【受賞】

高圧ガス保安協会 高圧ガス保安協会会長表彰保安功績者 (2022 年)

The American Society of Mechanical Engineers, PVP Division 貢献賞 (2015 年)

The American Society of Mechanical Engineers, PVP Division 論文賞 (2000 年)

井上研究奨励賞 (1998 年)

The American Society of Mechanical Engineers PVP Division 学生論文賞 (1995 年)

【委員会活動】

日本原子力学会 次世代ナトリウム冷却高速炉の安全設計評価方針検討会 委員 (2023/10～)

地震計規格委員会 (ISO37174) 委員 (2023/04～)

ASME PVPD Seismic Engineering Technical Committee Chair (2021/09/06～)

The Lift and Escalator Symposium Educational Trust, Inter. Sci. Committee Member (2021/09～)
日本機械学会 耐震問題研究会 主査 (2021/04/01～)
日本ボイラ協会 地震対策委員会 委員長 (2020/04/01～)
経済産業省工業標準調査会 ISO/TC96 国際会議 委員 (2019/04/01～)
日本クレーン協会 JIS 原案作成分科会 主査 (2019/04/01～)
日本電気協会 原子力規格委員会 機器・配管系検討会 副主査 (2018/04/01～)

【著書および主要論文】

齋藤翔太, 古屋治, 重心位置変化を利用した新しい免震システムに関する基礎的研究 (水平方向加振時の応答低減効果), 第16回日本地震工学シンポジウム, G416-14, 2023.
古屋治, 高加速度・高振動数領域での機械構造物の振動台試験 構造物の安全性および信頼性, 構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム論文集, 2023.
O. Furuya, Study on the concept of using lifts and escalators in evacuation routes using fragility assessment (Damage Analysis and Pedestrian Simulation), Trans. of 14th Symposium on Lift and Escalator Technologies, 2023, pp.14-1-14-12. 2023.
日本電気協会, 原子力発電所耐震設計技術指針, JEAG4601-2021, 2023.
O. Furuya, et al, Research and Development of TMD for Long Periodic Structure using Air Floating Technique, Proc. of 17th WCEE Paper No. C002982, 2020.
日本産業規格, クレーン耐震設計に関する原則, JIS B 8842-2020, 2020.
藤田聡, 古屋治, 皆川佳祐, はじめての振動工学, 東京電機大学出版, 2019.
O. Furuya, et al, A Fundamental Study Concerning the Correct Performance of Elevator Buffers, Journal of Transportation Systems in Buildings, Vol. 2 No. 1, 2018.
高圧ガス保安協会高圧ガス規格委員会, 高圧ガス設備の耐震設計に関する基準 (レベル1) (レベル2), 2018.
古屋治, 下坂陽男, 倉林浩, 牟田仁, 軽量機械構造物を対象とした摩擦滑りを有する地震時転倒防止機構 (基本設計仕様の検討と性能実証試験), 日本機械学会論文集, Vol.82 No.842, p. 16-00184, 2016.

【所信】

日本地震工学会では, 設立当初から電子広報委員会等を含めた各種委員会や研究会で活動をさせていただき, また, 事業担当と会計・会員担当の理事として学会運営にも携わらせていただきました. 本会は, 地震工学に関連する建築, 土木, 地盤, 機械, 地震の5つの代表的な研究分野の技術者・研究者の横断的な活動の場として設立され, 我が国の地震防災・減災対策の課題解決に向けた地震工学の発展に大きく寄与しています. 今後の大地震への対策を継続検討する上で極めて重要な位置付けの学会と判断できます. その中で会員構成的には少数となる機械分野からの委員, 理事として本会に所属し, 委員会, 大会, シンポジウム等で他分野の方々と関わらせていただくことで, 地震工学分野の裾野の広さと工学的総合力が必要とされる分野であることを常々実感させていただいております.

この度, 監事に立候補をさせていただき, 選出されましたら, これまでの本会での経験や他の学協会等での経験を活かし, 透明性かつ健全性のある学会運営・監査業務に努めます. また, 本会の特徴である横断的な討議の場がますます盛んになり, 会員の方々の研究や地震工学の進展に貢献できるよう機械分野から支援したいと考えます. 学会運営につきましては, 会計・会員担当理事としての経験を活かし, 人材育成や技術伝承といった各分野で課題となっている部分の解決に少しでも貢献できるよう努力したいと考えます. また, 会員からのご意見やご要望等に対して真摯に取り組む運営についても心がけます. 監査業務につきましては, 会員の方々が学会の活動状況や財務状況の現状を正確に把握できるように明確で分かりやすい情報提供を行い, 高い信頼関係が構築できるよう努めます.

以上